

# 坂 出 港 統 計 要 覧

平成 2 1 年

坂出市都市建設部港湾課

# 坂出港の概要

## (1) 概 要

港湾は流通活動、産業活動の重要な基盤をなしており、地域開発と密接な関係から、都市の経済発展上切り離すことのできない重要な施設である。

本市の港湾は重要港湾としての坂出港、地方港湾としての木沢港と与島港の3港がある。重要港湾であり香川県の代表的な港である坂出港は、香川県海域のほぼ中央に位置し古くから瀬戸内海における海上交通の要所として、重要な役割を果たしてきた。

本港は、約180年前(天保2年)坂出港付近の塩田築造とともに開設され、現在の西運河および沖湛甫を中心に、主として塩田関係の輸送に利用されていた。その後、本港本来のすぐれた立地条件により、和船の往来も頻繁で備讃瀬戸における重要な港湾となり、中国・阪神・九州さらに北海道方面との交易にも利用されるようになった。

坂出港の港湾整備は、明治33年の港湾実態調査に始まり、大正5年より5箇年計画をもって、まず内港運河の浚渫工事から着手された。その後、昭和3年より東亜圏内の貿易を目標として、本格的な第1期改修工事に着手し、東西埋立地31.1万平方メートル、水深7メートル西岸壁延長274メートル、港内泊地21万平方メートルの浚渫などが行われ、昭和12年より第2期改修工事が着手され、近代的港湾の基礎が築かれた。昭和23年1月には開港の指定を受け、同年7月には港則法による港域が設定された。その後昭和26年9月には重要港湾に格付けられ、つづいて昭和28年7月には、坂出市が港湾管理者として認可され、税関・海上保安署・検疫所・植物防疫所・入国管理事務所等の行政機関も設置された。

昭和27年1月、瀬戸内海一貫航路および坂出航路の安全宣言が行われるに至り、益々港湾活動は活発となった。さらに、大型船も続々入港するようになり、昭和34年6月からは、中央突堤東側に水深10メートル岸壁1バース、北側に水深6メートル岸壁1バースをそれぞれ工事着手し、昭和38年12月に完成した。

また、昭和40年4月には、県営番の州第1期公有水面埋立(464.9ha)も免許され、直ちに同埋立てに着手、さらに昭和44年5月には、第2期公有水面埋立(150.8ha)が免許、番の州埋立ては、順調に進捗し、昭和42年には、(株)川崎造船が操業を開始し、つづいて三菱化学(株)、四国電力(株)、コスモ石油(株)、YKK(株)等、大型の近代化企業が相次いで立地操業し、香川県工業開発の中核として、本港は飛躍的に発展した。これに伴い、入港船舶の大型化と取扱貨物量の増大等に対応する必要から、本港の新たな拠点づくりとして、林田地区で昭和44年3月より、水深4.5メートル岸壁2バース、水深5.5メートル岸壁3バース、水深7.5メートル岸壁2バース、水深12メートル岸壁2バース、またこれに対応する航路・泊地87.1万立方メートルの浚渫をそれぞれ着手し、昭和57年4月に供用開始し、坂出港を代表するふ頭に発展している。

さらに、「世紀の大事業」といわれる瀬戸大橋は、昭和53年10月に着手され、昭和63年4月に完成し、それと接続する四国内の高速道路網も順次整備されている。また、物流機能の充実

を図るため、阿河浜地区に水深 7.5 メートル岸壁 1 バース、またこれに対応する泊地 1 万平方メートルの浚渫を行い平成 3 年 4 月に供用を開始すると共に、松ヶ浦地区における水深 5 メートル岸壁 2 バースの増設が平成 4 年 4 月に供用を開始した。

さらに、坂出港東部地区の円滑な臨港交通体系を確立するため、林田地区と阿河浜地区の両地区と背後幹線道路（さぬき浜街道）を結ぶ臨港道路林田・阿河浜線（総延長 1,698m、幅員 22m）が平成 12 年 5 月に供用開始した。

平成 16 年には、SOLAS 条約の改正に関連した国内法（略称：国際船舶・港湾保安法）の制定に基づき、坂出港の貿易ふ頭では港湾保安対策を実施する義務が生じ、公共ふ頭では中央ふ頭 1 号・2 号岸壁及び林田 A 号岸壁、民間ふ頭では、三菱化学(株)、コスモ石油(株)、全農エネルギー(株)で保安対策を実施し、世界標準規格の貿易港としての機能を保持している。

また、平成 17 年 11 月の、FAL 条約(国際海上交通の簡易化に関する条約)の施行に基づき、同条約に係る様式、及びそれ以外の手続(一部)申請の電子化(港湾 EDI システム)を実施し、簡易化・迅速化に努めている。

また、平成 20 年 2 月に西ふ頭地区において、外内貿貨物取扱機能を強化するため、水深 7.5 メートル岸壁 2 バース、内 1 バースは耐震強化岸壁とする港湾計画の変更を行い、平成 20 年度より着手している。

平成 22 年度には、四国電力(株)、コスモ石油(株)、四国ガス(株)が共同で設立した、坂出 LNG(株)が、四国最大の液化天然ガス(LNG)基地を建設し 3 月より稼働している。

これらにより、四国を代表する港湾として、さらに大きく飛躍するものと期待されている。

## (2) 港湾区域

沙弥島北端から小瀬居島南端および大屋富町字鼻甲 3,095 番地の 2 を順次結んだ線ならびに陸岸により囲まれた海面、ならびに綾川河口の江尻町字本条 1 番地の 1 の東南端角および林田町字与北 4,233 番地の丙の西南端角を結ぶ線、青海川松山橋および大屋富川新興橋、満の尻運河満の尻橋下流の河川水面。ただし、漁港漁場整備法により指定された御供所漁港、東浦漁港及び西浦漁港の区域を除く。

# 坂出港の沿革

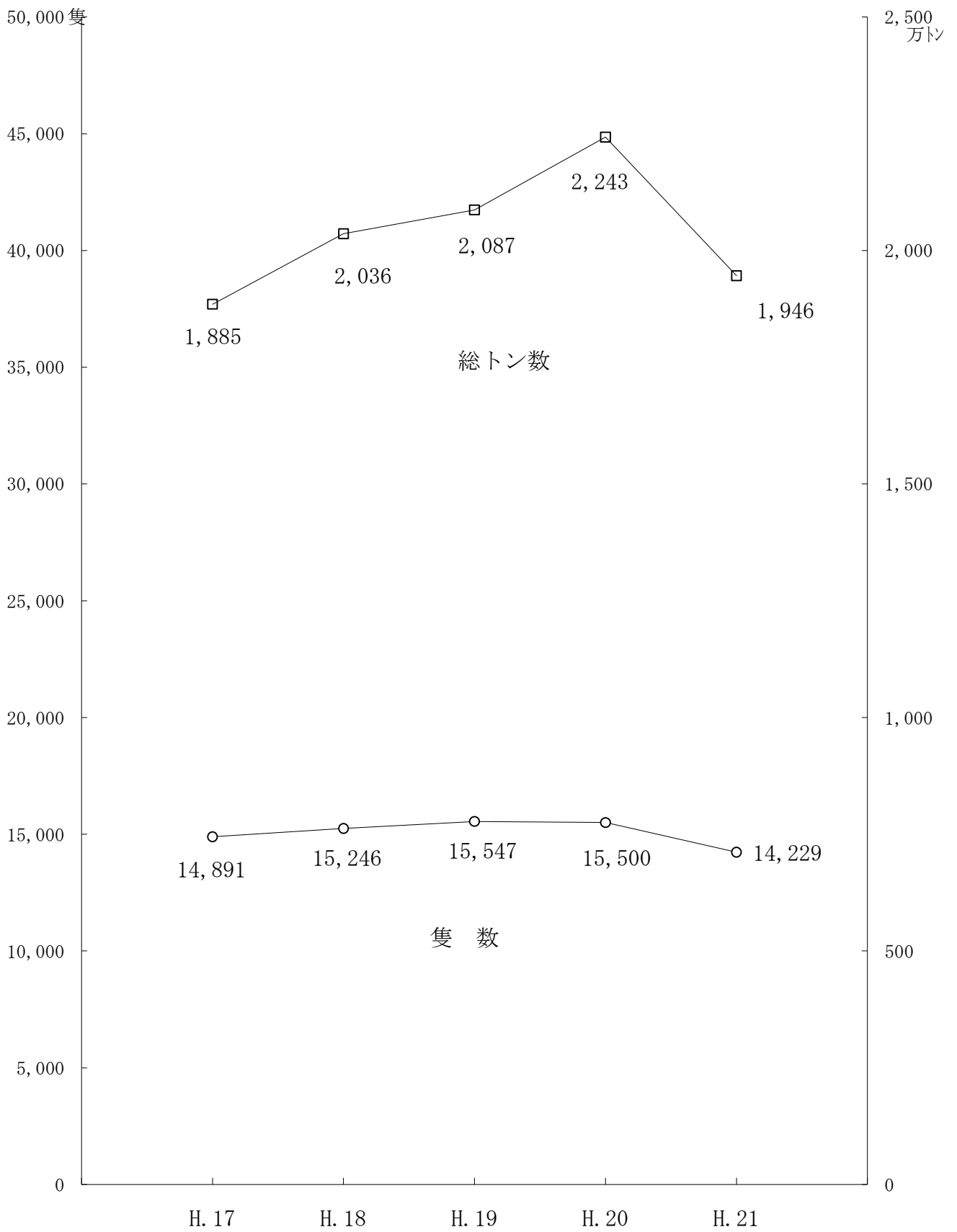
年 代	西 曆	記 事
天保 2 年	1 8 3 1	帆船錨地として沖湛甫築造。
大正 元 年	1 9 1 2	築港期成同盟会生れる。
大正 5 年	1 9 1 6	五ヶ年計画を以って内港運河の浚渫工事施工。
昭和 3 年	1 9 2 8	西岸壁・東西埋立地等第 1 期改修工事に着手、昭和 7 年まで実施。 (工事費 1 4 2 万 6 千円)
昭和 12 年	1 9 3 7	中央突堤の築造を県営工事として、第 2 期改修工事に着手、 第 2 次世界大戦のため中断し、昭和 3 8 年 2 月完成。
昭和 20 年	1 9 4 5	1 0 月 2 4 日 坂出港振興協会発会式。
昭和 21 年	1 9 4 6	1 2 月 2 1 日 南海大震災により、西岸壁災害を受ける。
昭和 22 年	1 9 4 7	3 月 震災復旧工事・臨港鉄道敷設に着手。
昭和 23 年	1 9 4 8	1 月 1 日 関税法による開港となる。 7 月 1 6 日 港則法による港の区域の指定。
昭和 24 年	1 9 4 9	1 1 月 輸入食糧第 1 船 (石狩丸) 入港。 1 2 月 臨港鉄道中央岸壁線開通。
昭和 26 年	1 9 5 1	6 月 2 0 日 港湾運送事業法により指定港となる。 9 月 2 2 日 港湾法施行令により重要港湾となる。
昭和 27 年	1 9 5 2	7 月 3 1 日 出入国管理令により外国人の出入港となる。
昭和 28 年	1 9 5 3	7 月 3 0 日 港湾区域が決り、坂出市が港湾管理者となる。
昭和 29 年	1 9 5 4	1 2 月 1 6 日 植物防疫法により、穀類・木材の輸入港に指定。
昭和 33 年	1 9 5 8	7 月 1 日 検疫法により検疫区域の指定。
昭和 35 年	1 9 6 0	1 1 月 港湾審議会第 1 1 回計画部会。
昭和 37 年	1 9 6 2	1 月 江尻地区臨港道路新設工事着手。(3 8 年 3 月竣功) 金山新塩田埋立工事着手。(3 8 年 1 0 月竣功)
昭和 39 年	1 9 6 4	1 1 月 港湾審議会第 2 4 回計画部会。(改訂)
昭和 40 年	1 9 6 5	3 月 5 日 臨港地区を指定。 4 月 県営番の州地区第 1 期公有水面埋立工事着手 (4 8 年 6 月竣功 4, 5 8 9, 2 1 9 m <sup>2</sup> )
昭和 43 年	1 9 6 8	1 2 月 1 6 日 港湾区域を拡張し、番の州地先海面が含まれる。
昭和 44 年	1 9 6 9	1 月 県営番の州地区第 2 期公有水面埋立工事着手。 (4 7 年 1 2 月竣功 1, 4 3 9, 9 8 9 m <sup>2</sup> ) 3 月 2 5 日 林田地区改修事業に着手。 1 1 月 2 0 日 港湾区域を変更し、松ヶ浦港が含まれる。
昭和 45 年	1 9 7 0	3 月 西浜地区公有水面埋立工事着手。 (4 7 年 8 月竣功 5 9, 4 5 2 m <sup>2</sup> ) 5 月 3 0 日 臨港地区を指定変更し、番の州地区等を追加。
昭和 46 年	1 9 7 1	4 月 1 日 港湾合同庁舎完成。
昭和 47 年	1 9 7 2	1 0 月 県営番の州瀬居南公有水面埋立工事着手。 (5 0 年 1 0 月竣功 1 6 1, 5 5 8 m <sup>2</sup> )
昭和 51 年	1 9 7 6	1 1 月 林田、阿河浜地区公有水面埋立工事着手。 (林田地区 5 6 年 1 1 月竣功 2 0 9, 8 7 3 m <sup>2</sup> ) (阿河浜地区 5 8 年 3 月竣功 8 0, 1 6 2 m <sup>2</sup> )
昭和 55 年	1 9 8 0	3 月 港湾審議会第 8 9 回計画部会。(改訂) 9 月 8 日 坂出清港会設立。

年 代	西 暦	記 事
昭和 57 年	1 9 8 2	4 月 林田地区ー 7.5 m 2 バース・ー 1 2 m 岸壁を供用開始。
昭和 58 年	1 9 8 3	3 月 沿岸環境監視船「おおはし」就航。
昭和 59 年	1 9 8 4	6 月 港湾環境設備事業により、みなと林田緑地が完成。
昭和 60 年	1 9 8 5	7 月 西運河船客待合所が完成。
昭和 61 年	1 9 8 6	1 0 月 臨港線が廃止される。
		1 2 月 港湾審議会第 1 1 7 回計画部会。(改訂)
昭和 63 年	1 9 8 8	4 月 1 0 日 本州四国連絡橋(瀬戸大橋)供用開始。
平成 3 年	1 9 9 1	4 月 阿河浜地区ー 7.5 m 岸壁供用開始。
平成 4 年	1 9 9 2	4 月 松ヶ浦地区ー 5 m 岸壁 2 バース供用開始。
平成 6 年	1 9 9 4	4 月 総社地区小型船だまり供用開始。
平成 9 年	1 9 9 7	1 1 月 港湾審議会第 1 6 4 回計画部会。(改訂)
平成 10 年	1 9 9 8	1 月 1 日 坂出港開港 5 0 周年。
		1 2 月 2 1 日 坂出市港務所改築完成。
平成 12 年	2 0 0 0	5 月 臨港道路 林田・阿河浜線供用開始。
平成 16 年	2 0 0 4	8 月 2 日 中央埠頭 1 号岸壁・林田 A 号岸壁で港湾保安対策開始。
平成 17 年	2 0 0 5	1 月 3 1 日 中央埠頭 2 号岸壁で港湾保安対策開始。
		2 月 7 日 坂出港国際水域施設保安対策開始。
平成 18 年	2 0 0 6	1 月 4 日 港湾 E D I システム開始。
		1 2 月 1 7 日 沿岸環境監視船「しらみね」就航。
平成 19 年	2 0 0 7	2 月 2 6 日 輸入食糧船 1 5 0 0 目隻入港。
平成 20 年	2 0 0 8	2 月 1 8 日 第 1 1 回坂出港地方港湾審議会(軽易な変更)
平成 22 年	2 0 1 0	1 月 1 日 臨港地区内の分区における構築物の規制に関する条例の施行(改正)
		1 月 9 日 L N G (液化天然ガス) 輸送第 1 船入港

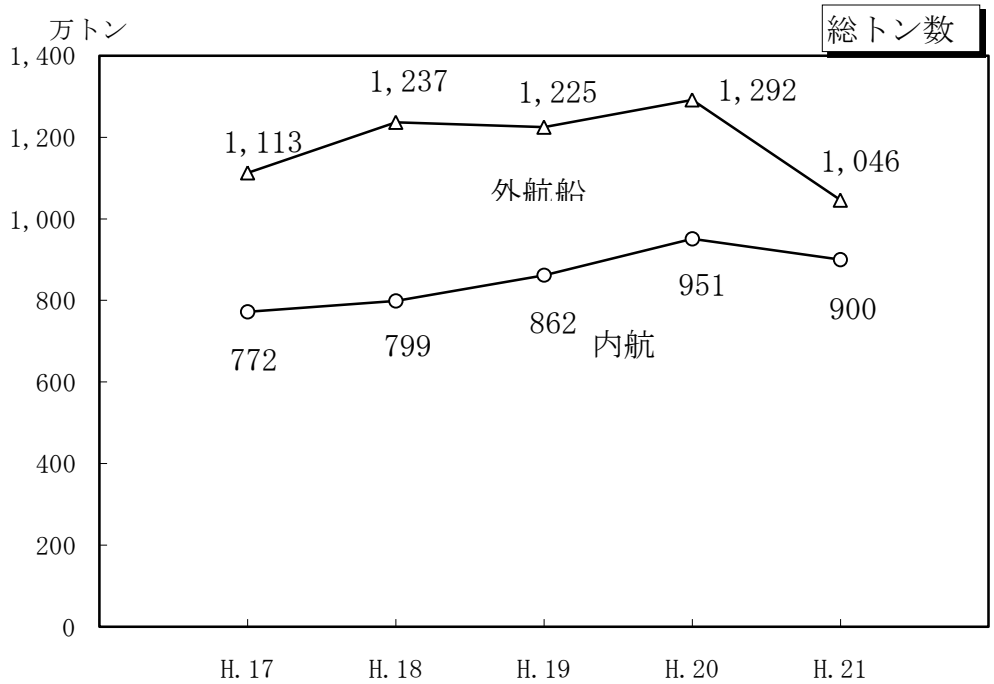
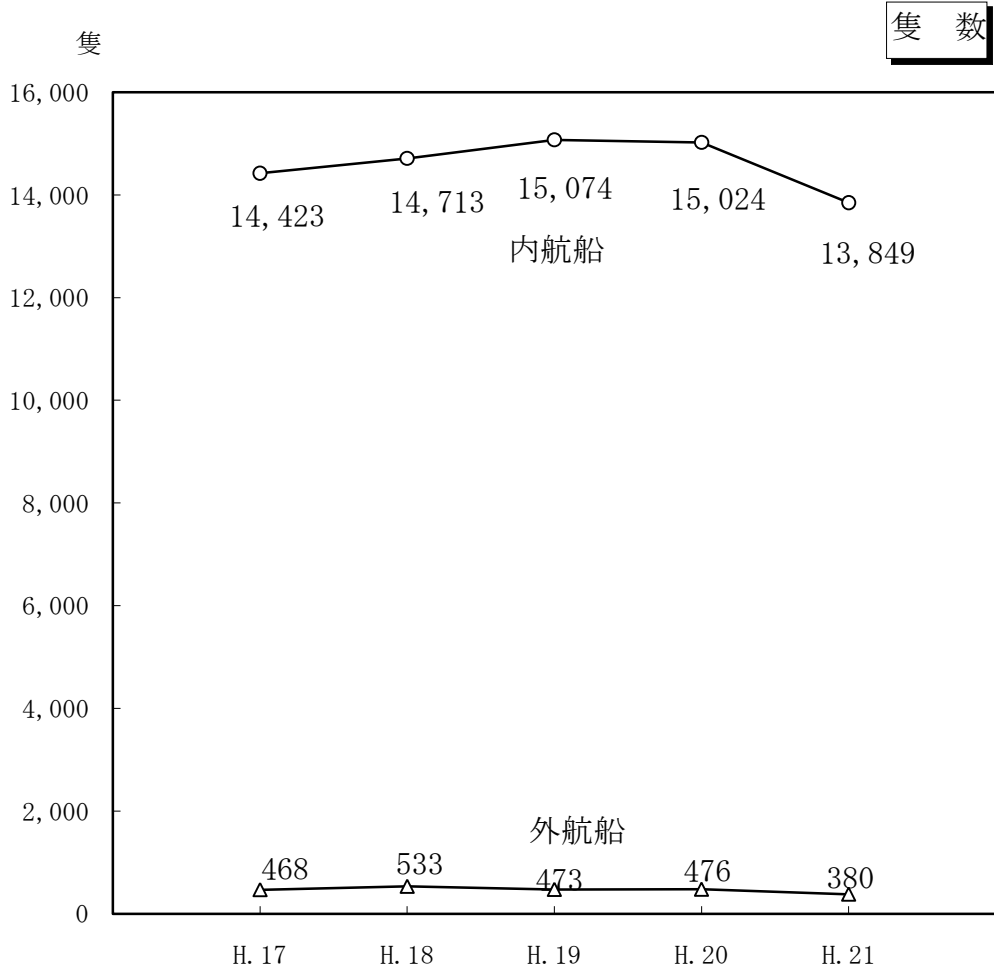
## 目 次

	ページ
入港船舶年次比較表	1
内外航別入港船舶数年次比較表	2
入港船舶階級別年次比較表（隻数）	3
入港船舶階級別年次比較表（総トン数）	4
海上出入貨物年次比較表	5
輸移出入別比較表	6
輸出入主要品目	7
移出入主要品目	8
外貿貨物（主要品目）仕向地別（輸出）	9
外貿貨物（主要品目）仕出地別（輸入）	10
内貿貨物（主要品目）仕向地別（移出）	11
内貿貨物（主要品目）仕出地別（移入）	12
地域別入港船舶及び貨物量（1号泊地）	13
地域別入港船舶及び貨物量（2号泊地）	14
地域別外貿（主要品目）貨物量（1号泊地）	15
地域別外貿（主要品目）貨物量（2号泊地）	16
地域別内貿（主要品目）貨物量（1号泊地）	17
地域別内貿（主要品目）貨物量（2号泊地）	18
入港船舶年次比較表	19
海上出入貨物年次比較表	19

# 入港船舶年次比較表

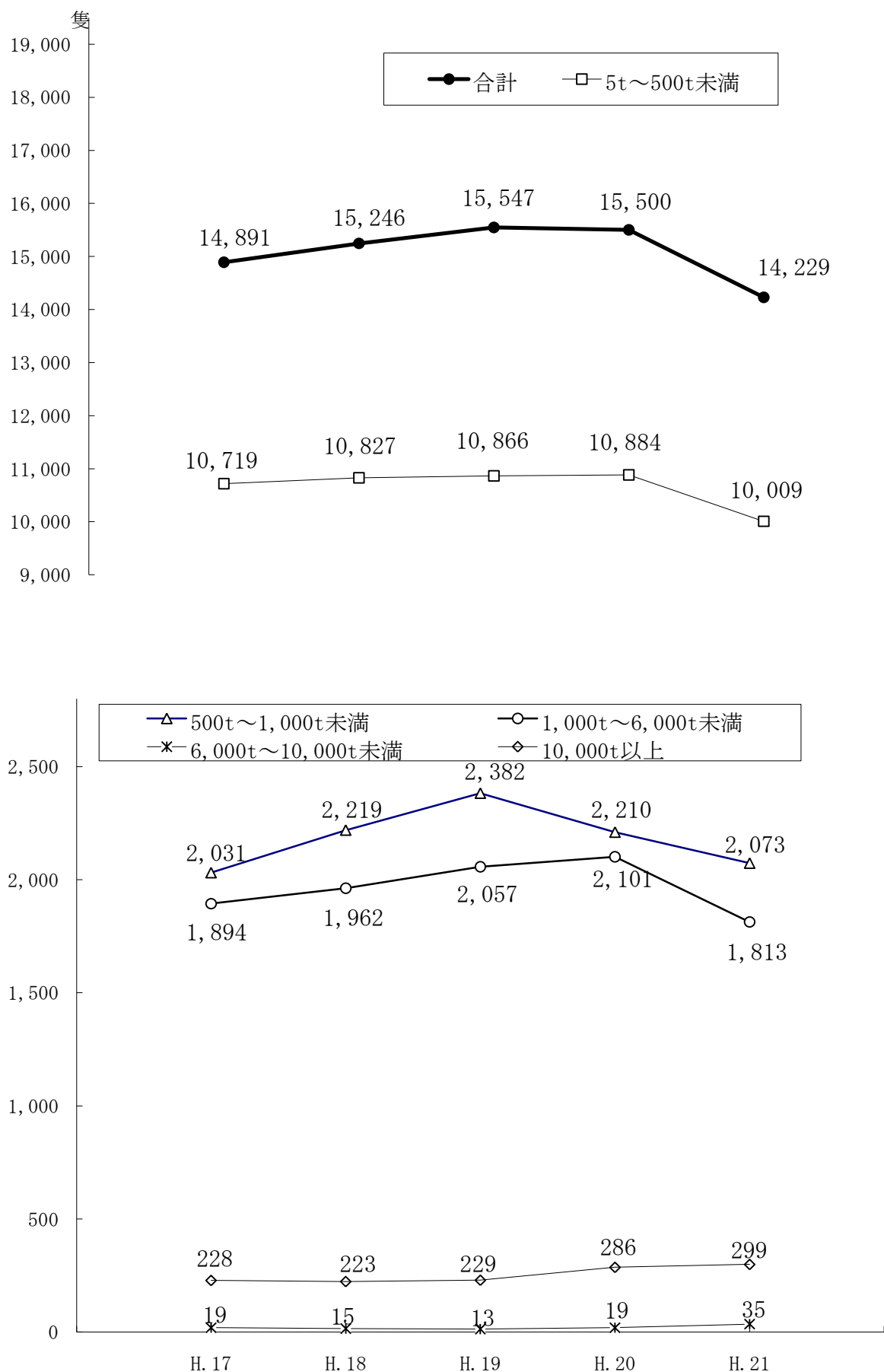


# 内外航別入港船舶数年次比較表

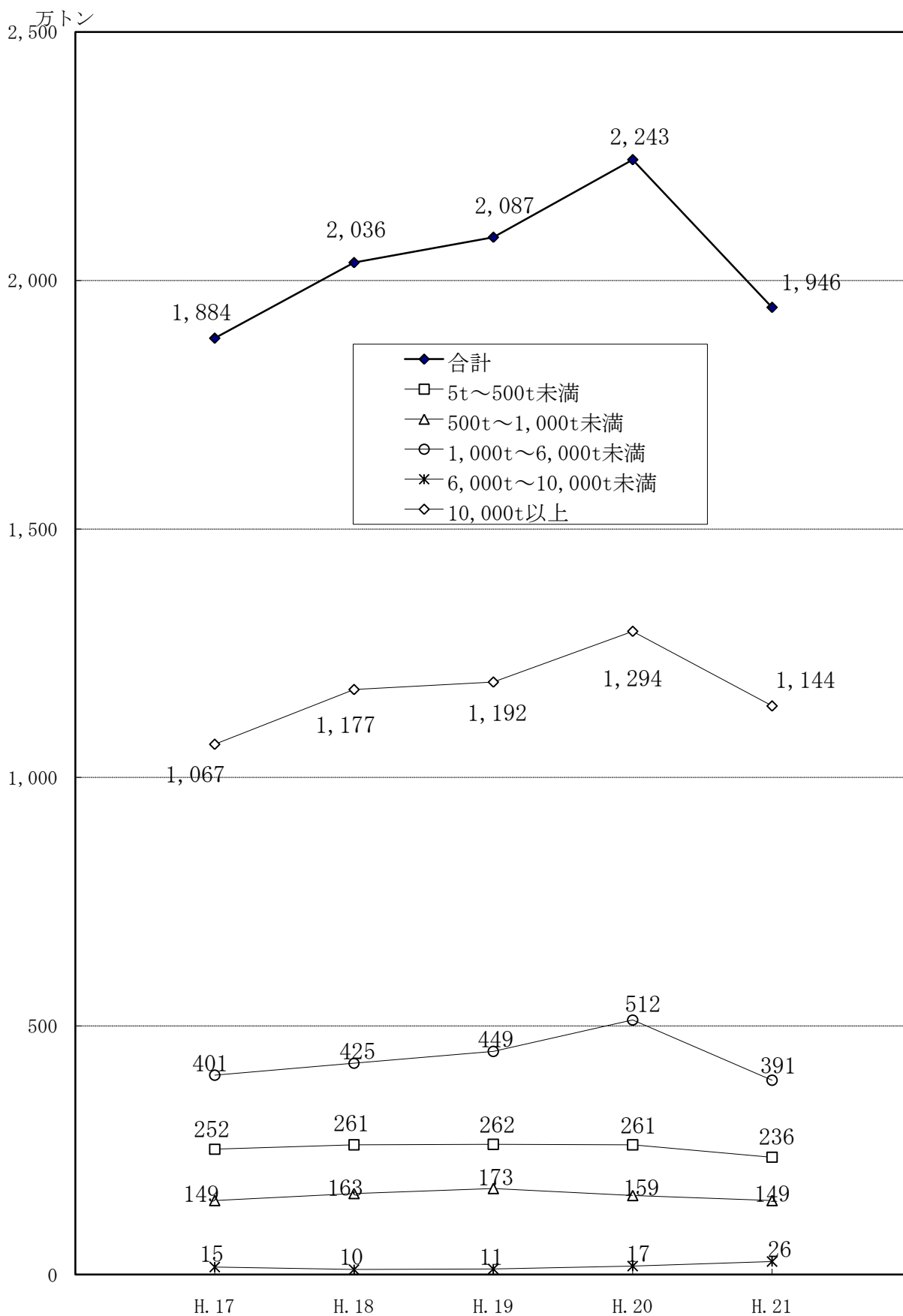




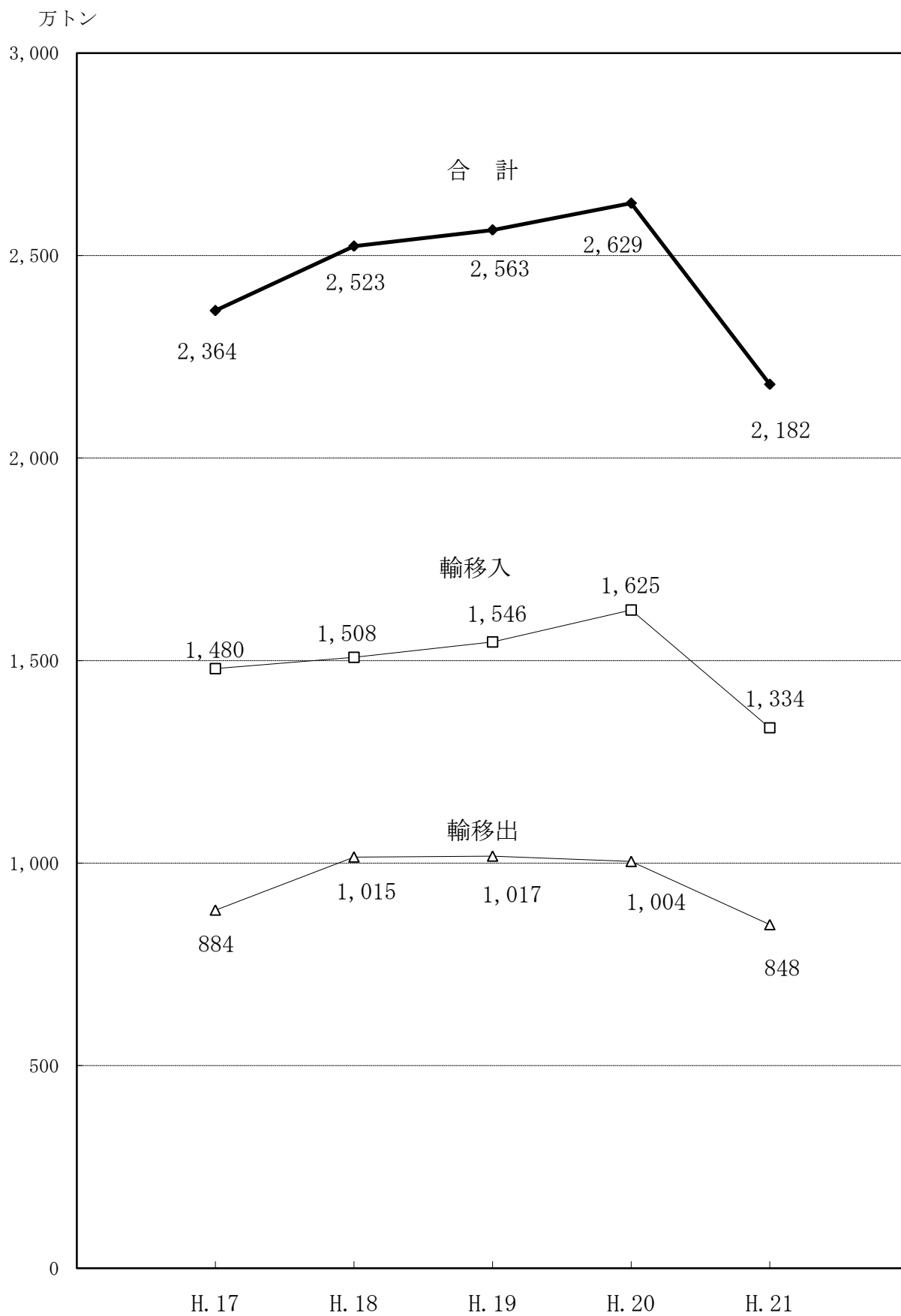
### 入港船舶階級別年次比較表（隻数）



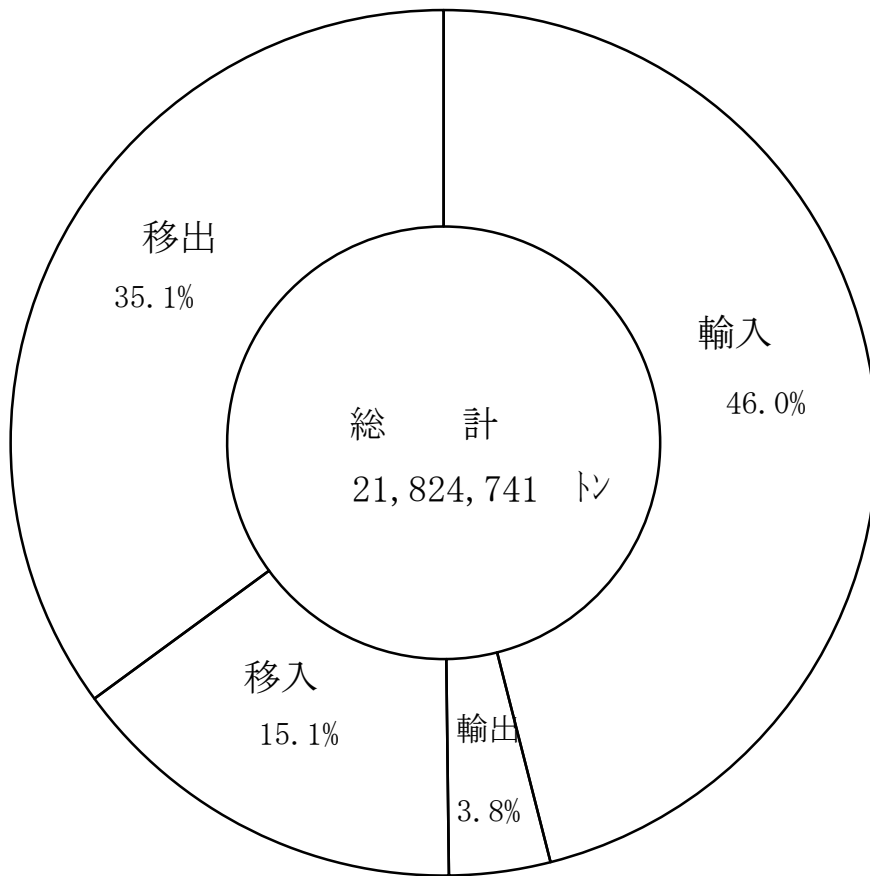
# 入港船舶階級別年次比較表(総トン数)



# 海上出入貨物年次比較表



# 輸移出入別比較表

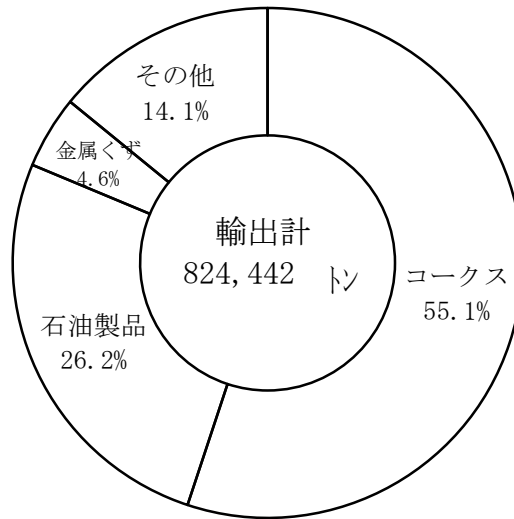


単位：トン

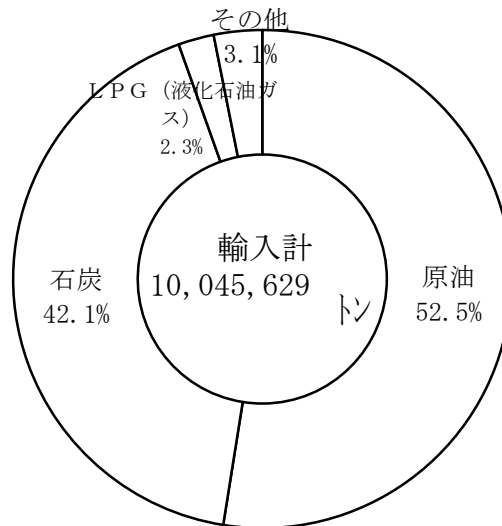
総計	21,824,741
輸入	10,045,629
輸出	824,442
移入	3,301,940
移出	7,652,730

## 輸出入主要品目

### 輸出



### 輸入

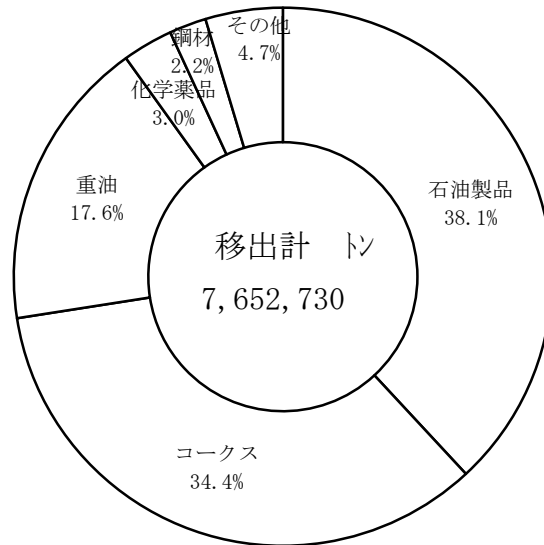


単位：トン

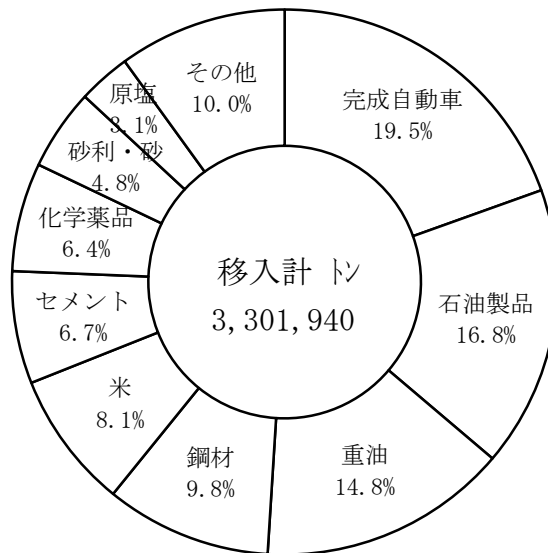
輸 出		輸 入	
コ ー ク ス	454,111	原 油	5,274,839
石 油 製 品	216,068	石 炭	4,223,798
金 属 く ず	38,011	LPG (液化石油ガス)	232,186
そ の 他	116,252		
		そ の 他	314,806
計	824,442	計	10,045,629

## 移出入主要品目

移出



移入

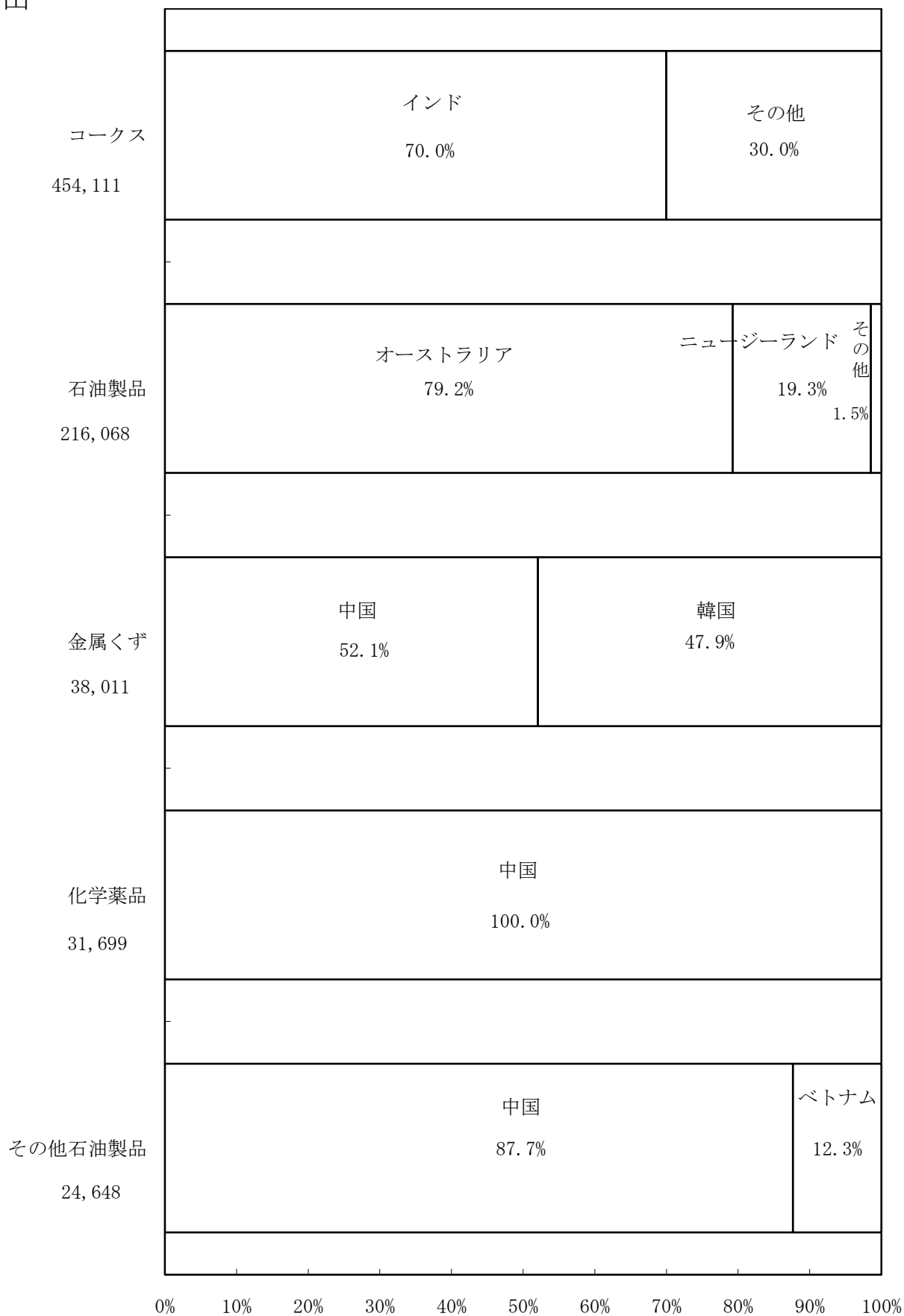


単位：トン

移 出		移 入	
石油製品	2,915,303	完成自動車	644,850
コークス	2,635,474	石油製品	550,578
重油	1,343,717	重油	488,492
化学薬品	232,344	鋼材	324,738
鋼材	170,517	米	268,888
		セメント	220,190
その他	355,375	化学薬品	212,726
		砂利・砂	159,327
		原塩	102,770
		その他	329,381
計	7,652,730	計	3,301,940

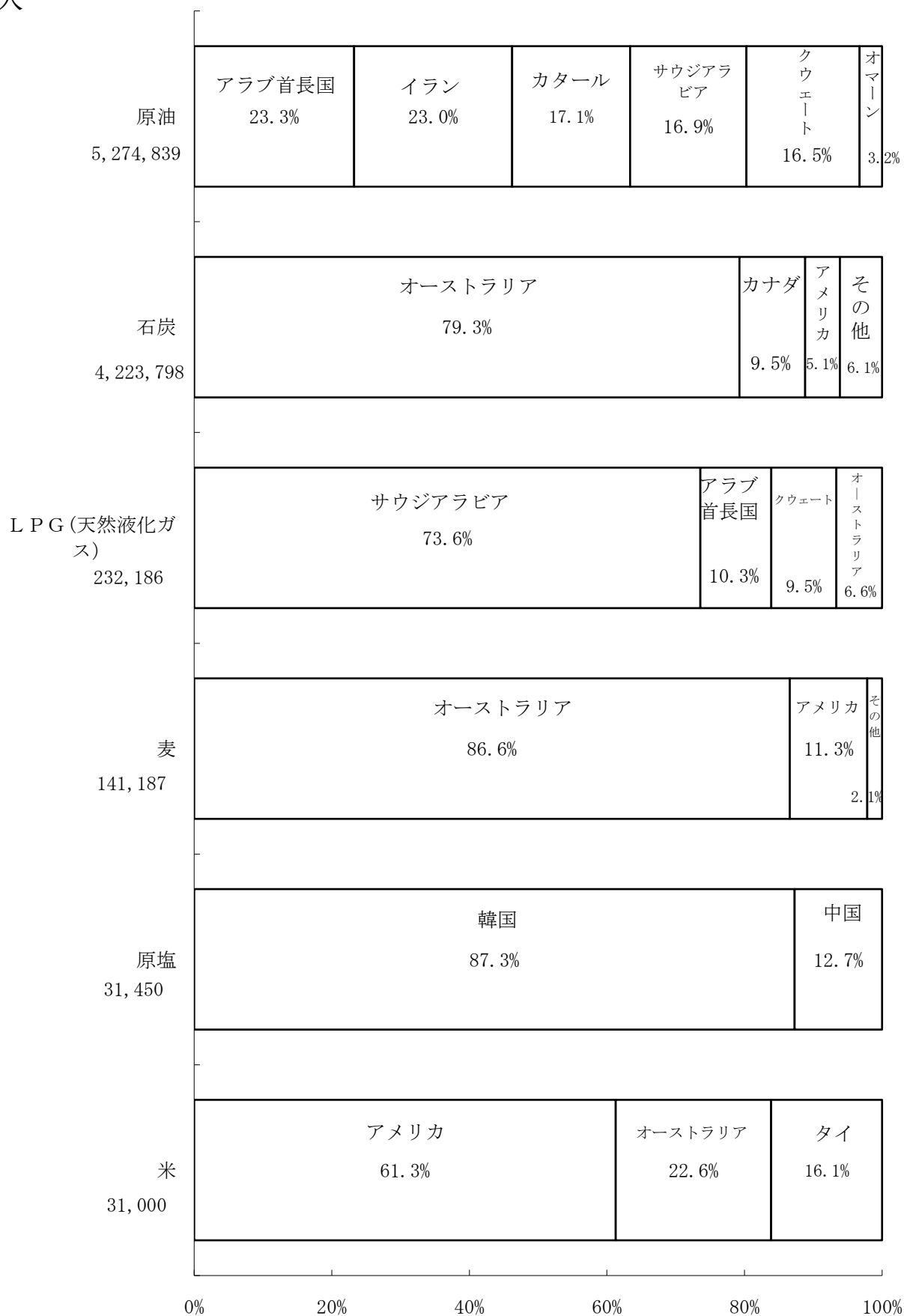
輸出

## 外貿貨物（主要品目）仕向地別



輸入

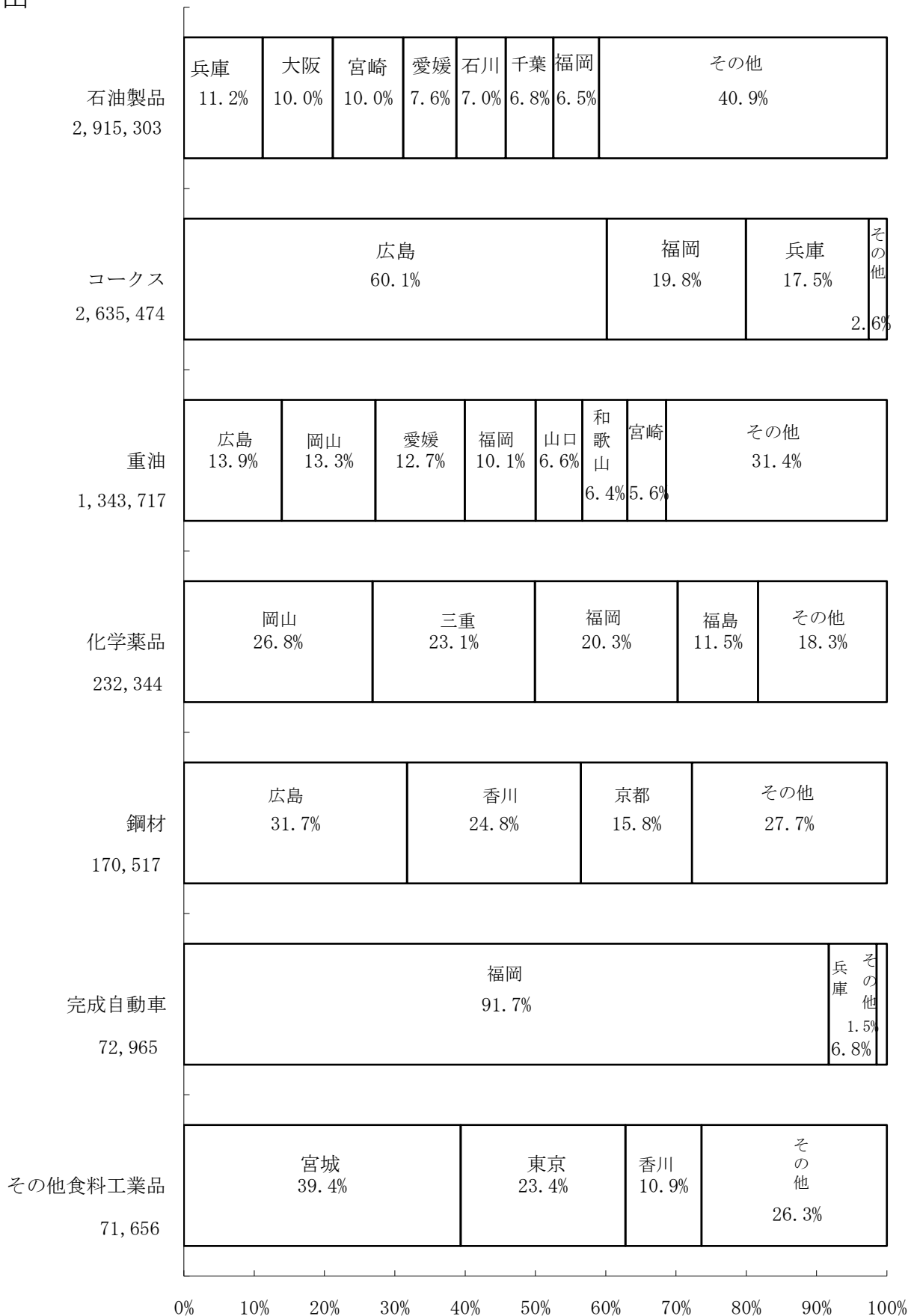
## 外貿貨物（主要品目）仕出地別





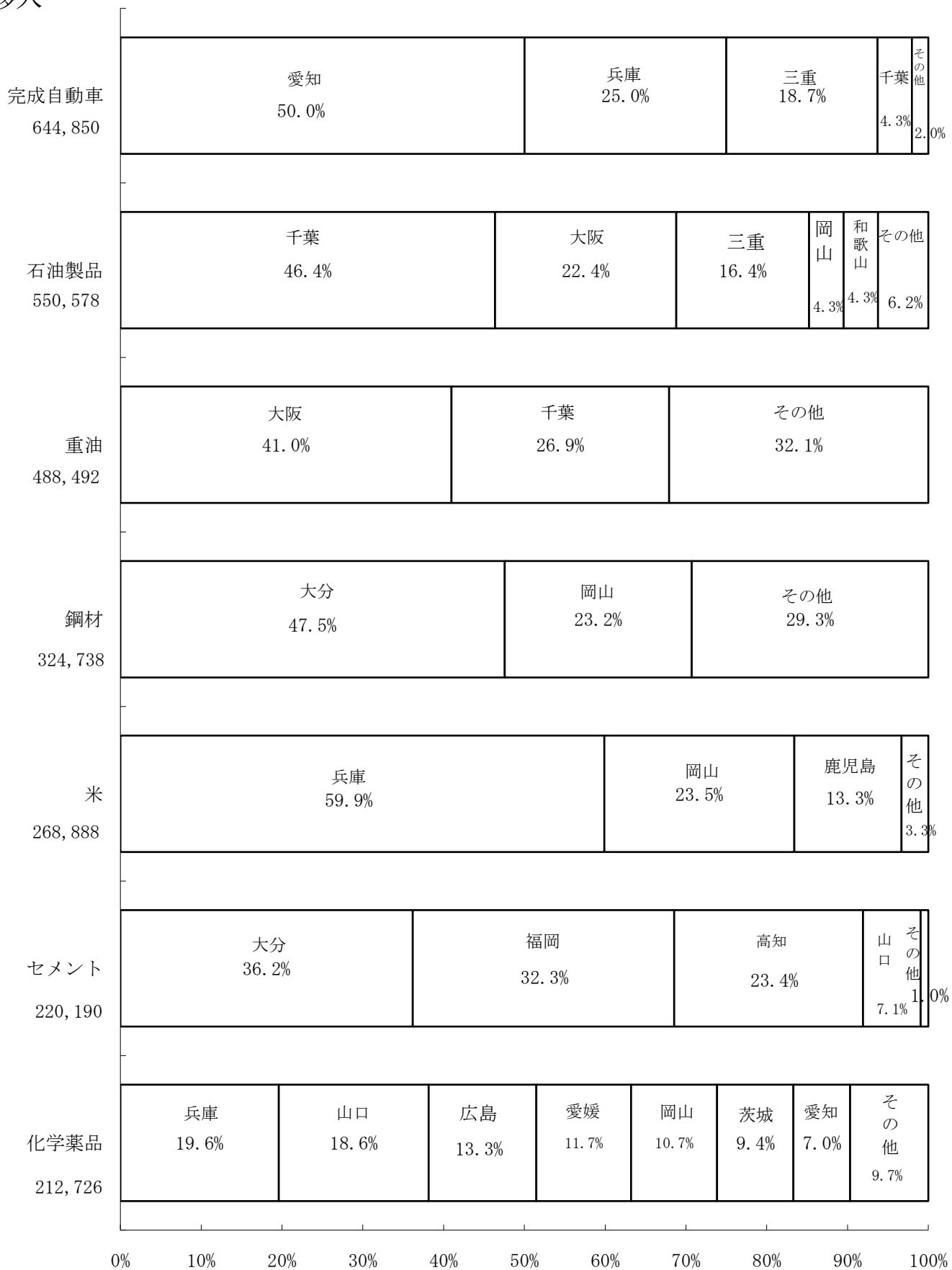
移出

## 内貿貨物（主要品目）仕向地別



# 内貿貨物（主要品目）仕出地別

移入

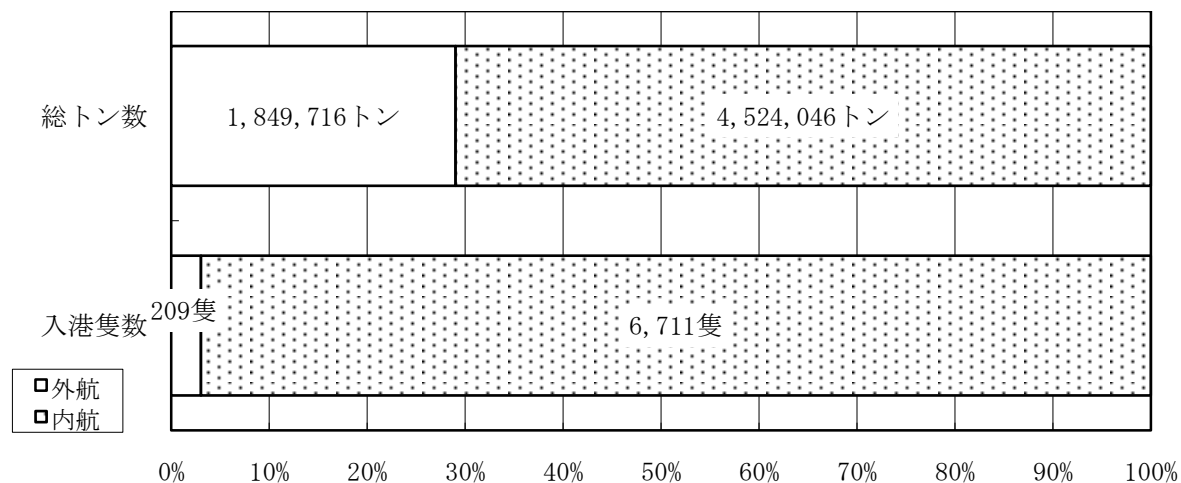


## 地域別入港船舶及び貨物量

1号泊地（本港）

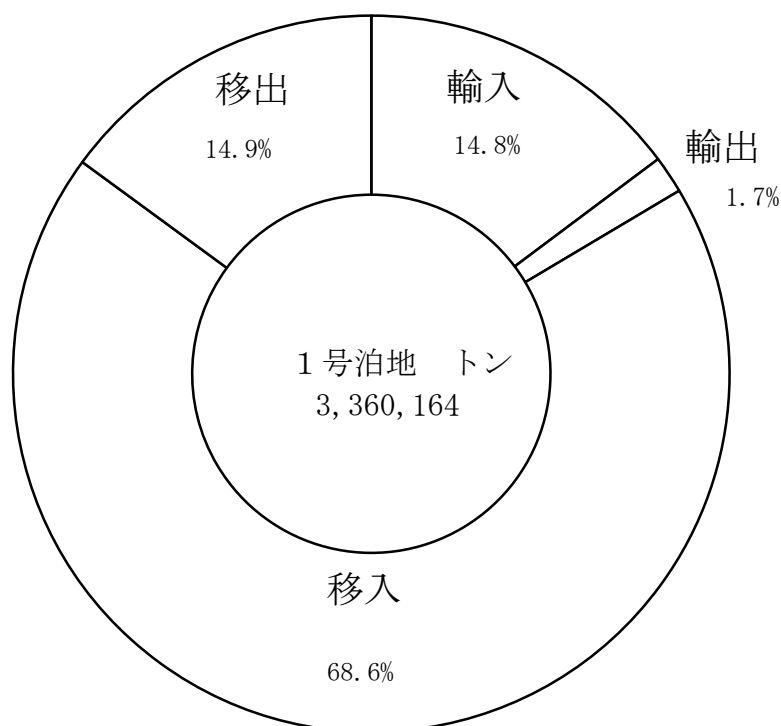
入港船舶

	入港隻数	総トン数
外航	209隻	1,849,716トン
内航	6,711隻	4,524,046トン
計	6,920隻	6,373,762トン



貨物量

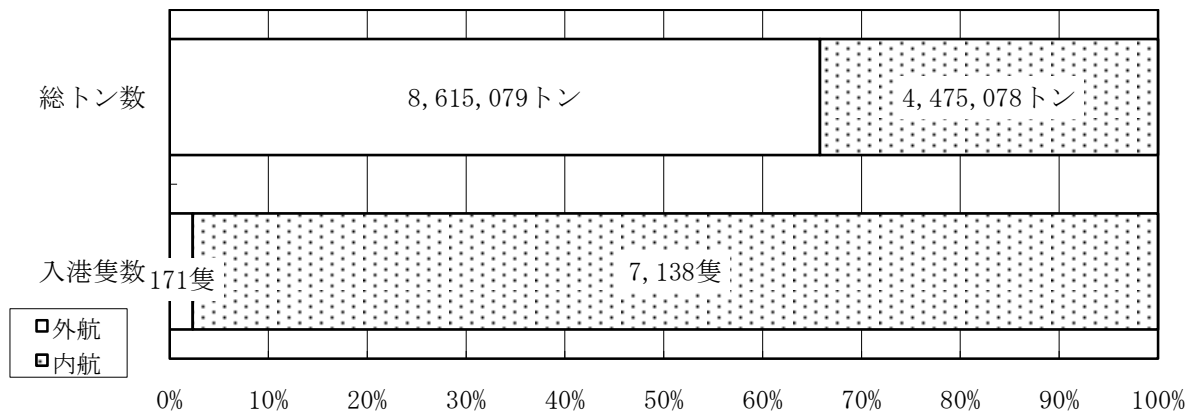
輸入	496,345トン
輸出	56,754トン
移入	2,305,274トン
移出	501,791トン
計	3,360,164トン



入港船舶  
2号泊地 (番の州)

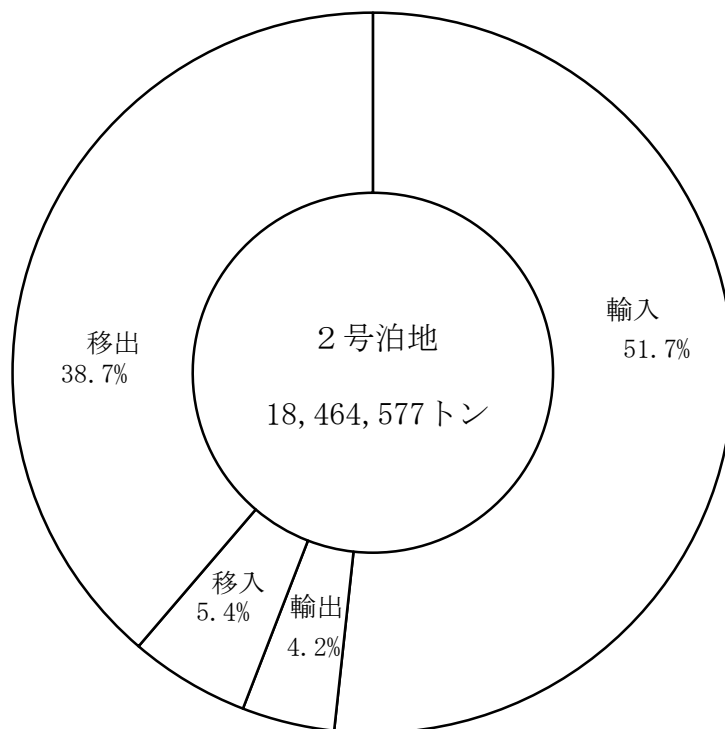
地域別入港船舶及び貨物量

	入港隻数	総トン数
外航	171隻	8,615,079トン
内航	7,138隻	4,475,078トン
計	7,309隻	13,090,157トン



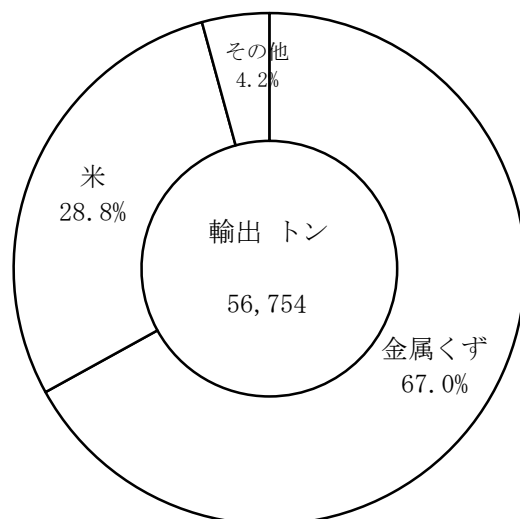
貨物量

輸入	9,549,284トン
輸出	767,688トン
移入	996,666トン
移出	7,150,939トン
計	18,464,577トン

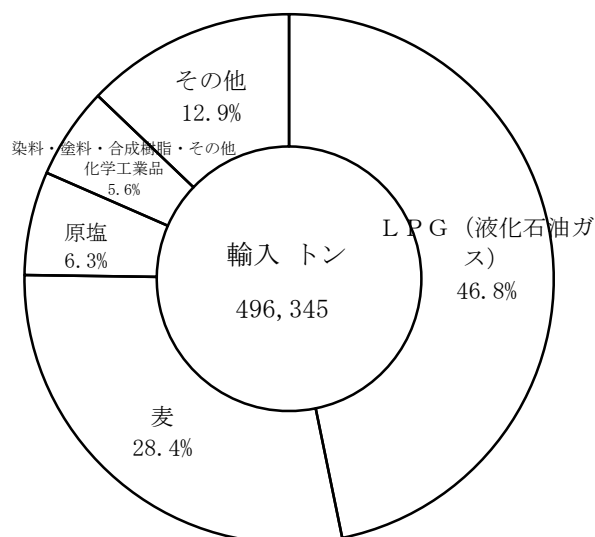


# 地域別外貿（主要品目）貨物量

1号泊地（本港）  
輸出



輸入



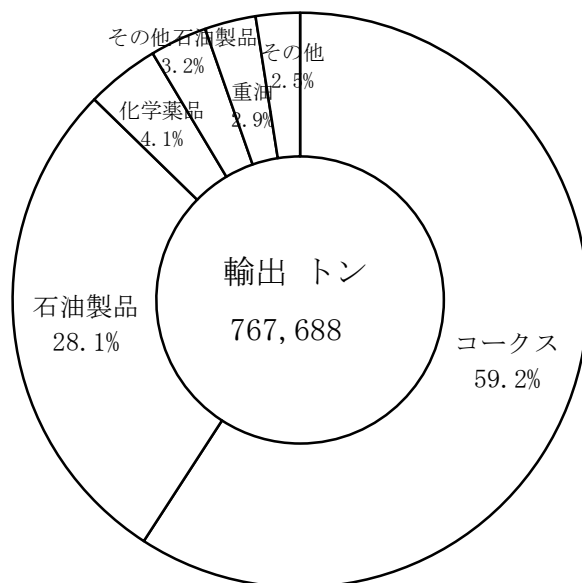
単位：トン

輸 出		輸 入	
金属くず	38,011	LPG（液化石油ガス）	232,186
米	16,331	小麦	141,187
その他	2,412	原塩	31,450
		染料・塗料・合成樹脂・ その他化学工業品	27,750
		その他	63,772
計	56,754	計	496,345

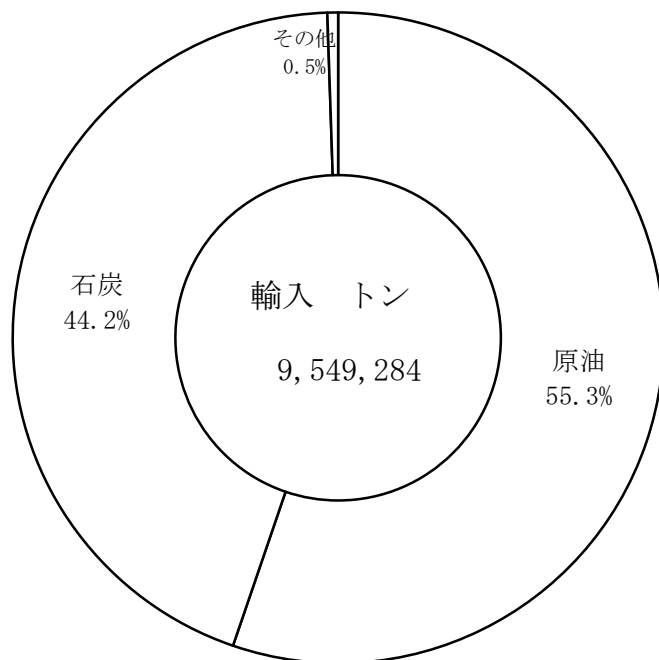
## 地域別外貿（主要品目）貨物量

2号泊地（番の州）

輸出



輸入

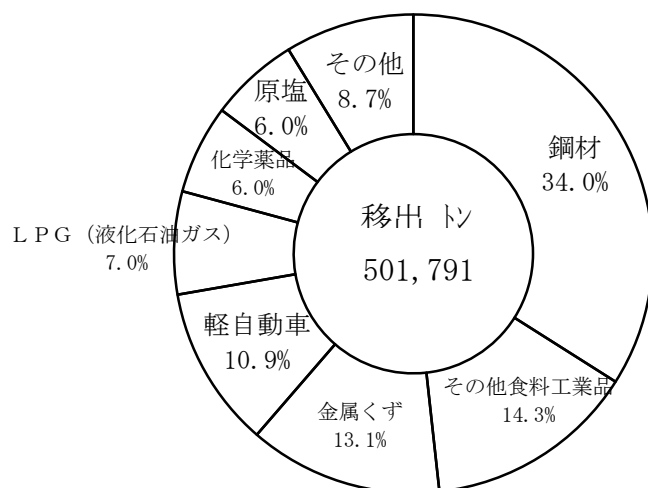


輸出		輸入	
コークス	454,111	原油	5,274,839
石油製品	216,068	石炭	4,223,798
化学薬品	31,699		
その他石油製品	24,648	その他	50,647
重油	22,112		
その他	19,050		
計	767,688	計	9,549,284

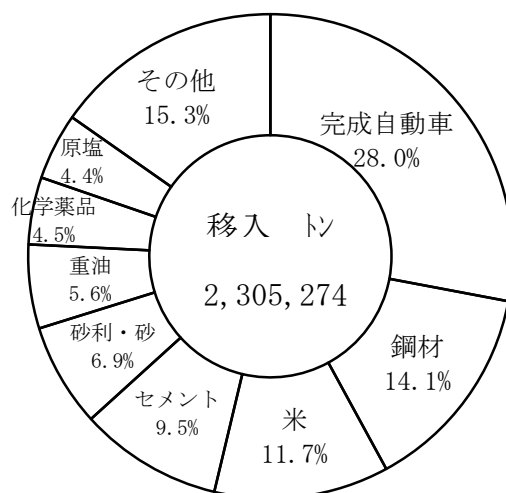
# 地域別内貿（主要品目）貨物量

1号泊地（本港）

移出



移入



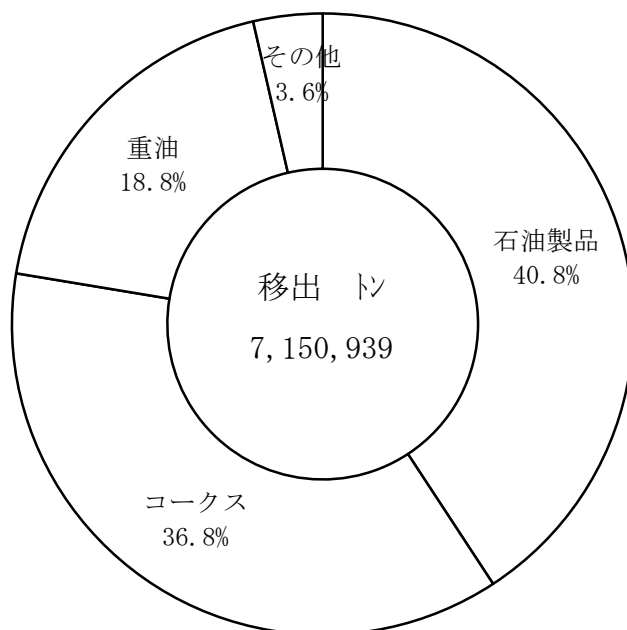
単位：トン

移 出		移 入	
鋼材	170,517	完成自動車	644,850
その他食料工業品	71,656	鋼材	324,738
金属くず	65,654	米	268,888
軽自動車	54,775	セメント	220,190
LPG (液化石油ガス)	34,860	砂利・砂	159,327
化学薬品	30,244	重油	129,032
原塩	30,264	化学薬品	103,496
その他	43,821	原塩	102,770
		その他	351,983
計	501,791	計	2,305,274

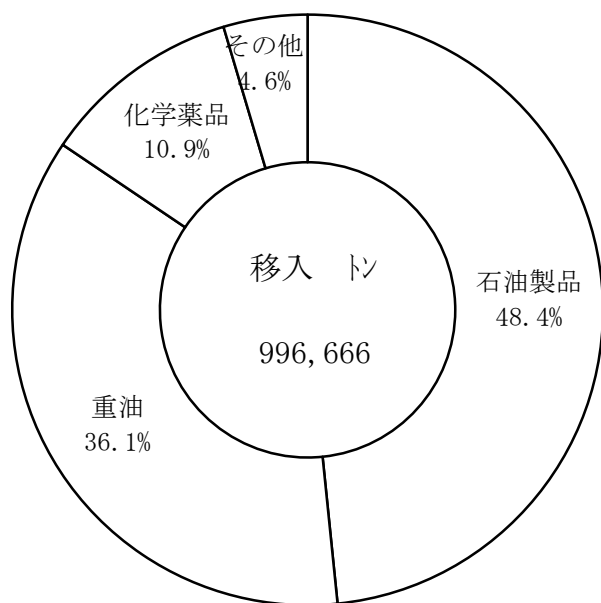
## 地域別内貿（主要品目）貨物量

2号泊地（番の州）

移出



移入



単位：トン

移 出		移 入	
石油製品	2,914,858	石油製品	482,198
コークス	2,635,474	重油	359,460
重油	1,343,567	化学薬品	109,230
その他	257,040		
		その他	45,778
計	7,150,939	計	996,666



### 入港船舶年次比較表

年次	総 計		外 航 船		内 航 船	
	隻数 隻	総トン数 トン	隻数 隻	総トン数 トン	隻数 隻	総トン数 トン
H. 17	14,891	18,846,347	468	11,129,240	14,423	7,717,107
H. 18	15,246	20,363,244	533	12,369,832	14,713	7,993,412
H. 19	15,547	20,869,439	473	12,246,570	15,074	8,622,869
H. 20	15,500	22,434,247	476	12,923,917	15,024	9,510,330
H. 21	14,229	19,463,919	380	10,464,795	13,849	8,999,124

### 海上出入貨物年次比較表

単位：トン

年次	出			入			総計
	輸出	移出	出計	輸入	移入	入計	
H. 17	1,032,043	7,805,953	8,837,996	10,956,377	3,842,906	14,799,283	23,637,279
H. 18	1,486,010	8,493,753	9,979,763	11,640,003	3,615,242	15,255,245	25,235,008
H. 19	1,438,352	8,731,597	10,169,949	11,946,856	3,515,809	15,462,665	25,632,614
H. 20	1,321,370	8,721,726	10,043,096	12,441,307	3,806,511	16,247,818	26,290,914
H. 21	824,442	7,652,730	8,477,172	10,045,629	3,301,940	13,347,569	21,824,741

年次	外 国 貿 易			内 国 貿 易			総計
	輸出	輸入	計	移出	移入	計	
H. 17	1,032,043	10,956,377	11,988,420	7,805,953	3,842,906	11,648,859	23,637,279
H. 18	1,486,010	11,640,003	13,126,013	8,493,753	3,615,242	12,108,995	25,235,008
H. 19	1,438,352	11,946,856	13,385,208	8,731,597	3,515,809	12,247,406	25,632,614
H. 20	1,321,370	12,441,307	13,762,677	8,721,726	3,806,511	12,528,237	26,290,914
H. 21	824,442	10,045,629	10,870,071	7,652,730	3,301,940	10,954,670	21,824,741